

11

【離床中の評価2】 フィジカル所見をどう解釈するか?

離床時におけるフィジカルアセスメントの所見は様々です。ここでは離床時に出やすい症状・所見と、その解釈について説明します。

1 立ちくらみやめまい、脱力感等の自覚症状を訴える

→運動負荷に見合うだけの心拍出量が保てなかつた可能性を考えましょう。

2 舌や口腔内、皮膚の乾燥を認める。ツルゴール反応が陽性である

→脱水を疑いましょう。循環血液量の低下による、血圧低下が原因かも。



3 冷や汗や顔面蒼白の出現、生あくび、不快な表情等の表情に、時間的な変化が現れる

→起立・歩行することで、次第に筋肉に血流を取られ、相対的に血圧が低下した可能性があります。



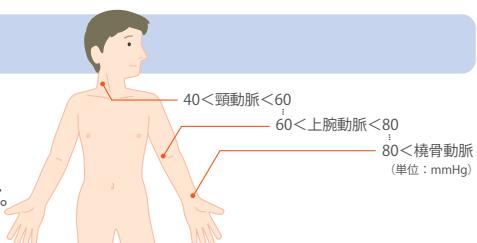
4 四肢末梢に冷感・湿潤を感じる

→運動によって末梢血流が低下し、それを代償するための末梢血管収縮反応、心不全状態によるうつ滞などが考えられます。

5 桡骨動脈・頸動脈が触知困難となる

→運動により相対的に血圧が下がっている状態が考えられます。

桡骨動脈は収縮期血圧 80mmHg 以下、頸動脈は 60mmHg 以下で触知困難となります。



6 脈拍数が大きく変化している

→脈拍数が下がる場合は自律神経失調症を疑い、著明に上昇(20回/分以上)する場合は循環血液量低下や、筋力低下による心負荷上昇が考えられます。

7 心拍リズムが変化する

→運動誘発性の不整脈が出現している可能性があります。

